

2025年度 学校自己評価シート（慶應義塾志木高等学校）

目指す学校像	独立自尊の気風を養い、自主性のある、品格の高い、明るい塾生を育成する教育を行う。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 基礎的な学問の習得 個性と能力をのばす教育 学校行事とクラブ活動の充実 開かれた学校づくりの推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇談会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	事務局（教職員）	1名

2025年度 目 標					学 校 自 己 評 価		
2025年度 目 標					2025年度 評 価 （2026年3月31日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	将来、社会の各分野で先導者として活動するため、また慶應義塾大学に進学する前段階として基礎的な学問を習得させ、学問・研究の必要性を理解させるとともに、自主的に学習するように指導する。特に大学一般教育課程に応じた学習指導に留意し、学力の全体的向上を図る。	基礎的な学問を習得させ、学問・研究の必要性を理解させるとともに、自主的に学習するための指導の実施	・各教科部会におけるきめ細かい指導方針の確立と実践 ・必修科目、選択科目、多様な学語科目を充実させ、幅広い学問的好奇心等の要求に対応	・教科責任者会議において情報共有化と学習指導方針のすり合わせを図る。	<p>【基礎的な学問の習得】</p> <p>・一人一人に教員の目が届くと同時に、生徒同士の多様な「交際」の場も確保するため、2年生のクラス編成を従来の6クラスから8クラスに変更し、1クラスあたりの人数を31～32名とした。</p> <p>・生徒・教員ともにアンケートを実施し、少人数適正規模教育の有効性を確認できた。</p> <p>・1年「現代の国語」では、さまざまな評論・思想を学びプレゼンやレポート作成力を養う授業カリキュラムの中、男子校という学びの場での問題意識を共有していくため、上野千鶴子の著作をはじめとしたジェンダーにまつわる考え方に触れ、主体的に思考していくよう心がけた。</p> <p>・2年の文学国語（8クラス）では、短歌を重点的に扱った。近代の歌人の短歌や、短歌自体の流れについて広く学んでもらうとともに、創作についても時間を多く使用した。短歌に取り組む一環として、本校卒業生の歌人 福山ろかさんをお招きして、講演を行ってもらった。その講演では、短歌の技法や、創作のヒントを生徒たちは学び、自身の創作に活かしてもらった。特に、生徒の作った短歌を福山さんに添削、講評いただいたことは、生徒にとって現役の歌人に歌を見てもらうよい経験となった。そしてこれらの経験を活かして、本校文化祭「収穫祭」にて、短歌の展示を行い、成果を外部に示した。短歌の創作は授業内で完結させるのではなく、福岡女学院短歌コンクールを中心に、様々なコンクールにも応募した。</p> <p>・3年の文学国語（3クラス）では、教室での学びとともに、文化の体験を重視した。7月には、伝統芸能「詩舞」の師範・見城星梅月氏を招聘。見城氏には、授業で学んだ与謝野晶子や若山牧水の短歌を題材に、舞を実演してもらった。さらに生徒自身も詩舞の所作を体験した。</p> <p>・1年生の歴史総合（2クラス）では、通常授業に加えて、Google Classroomを活用した課題によって基礎知識の定着を図った。加えて、夏季休業中の任意課題として『大日本史料』（東京大学史料編纂所）を模した史料集の作成を課し、本校図書館の協力を仰ぎつつ、各種文献や関連サイトの利活用を促した。</p> <p>・2年の公共(8クラス)では、政治・経済の基本知識の習得にとどまらず、福澤諭吉が重要視した「speech」の力を鍛えるため、チーム対抗のディベートを中心に据えた授業を行なった。論戦テーマには生徒に関心を持ってもらうため、現代的なトピックを盛り込むよう努めた(例：緊急事態対応のために優秀な指導者に独裁権を認めるべきか？ 国会審議はネット国民投票で行なうべきか？ 日本経済を成長させるは政府の財政政策か、より自由な市場競争か？ 国際金融取引に流通税を導入すべきか？ など)。加えて、ディベートの準備や振り返りにあたり、生徒には教員が知りうるレトリック技法も適宜アドバイスした。その結果、生徒のスピーチ力は次第に向上していき、3学期には多くの生徒が堂々と自らの主張を限られた時間(1-2分)の中で論証的にスピーチできるようになったと思われる。</p> <p>・2012年度より、3年生物の授業（単元：進化と系統）の一環として、校内自然観察会のインストラクターを希望した生徒への集中講座と観察会におけるインストラクションを実施してきた。2020年度～2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大を受け、自然観察会自体を開催中止していたが、2023年度より再開した。</p> <p>・実践英語では、3年間通じて、自分の考えを聞き手に分かりやすく、説得力を持って伝えることを目的に、アウトプットを重視した授業を行なっている。</p> <p>・1年生の授業：年間を通じてプレゼンテーションを計5回実施した。また、基礎力を養うため、シャドーイングによって自然な発音やリズムを身につけ、多読活動を通じてインプットを強化した。1年生2クラスでは、発表当日だけでなく、日頃の授業から2～3文(数十秒)程度をオーディエンスに向けて英語で話す機会を継続的に設け、自分の主張を堂々と発信する姿勢の育成に注力した。プレゼンテーションを重ねる中で、論理的な構成に加え、ジェスチャーや姿勢、アイコンタクトの重要性を重点的に学んだ。また、発音やリズムだけでなく、タイムマネジメント能力も向上した。さらに、アウトプットの流暢性を高めるための1分間スピーキング活動の機会を増やした。学年末に実施したアンケートでは、71.8%の生徒がスピーキングスキルが向上したと回答した。</p> <p>・2年生の授業：1年時のプレゼンテーションで学んだ構成を活かして、エッセイライティング及びスピーキングに取り組んだ。英語らしい論理展開と各所に相応しい表現を使うように練習を重ねた。まずはアウトプットの量を増大させることに主眼を置いている。8クラスの匿名アンケートでは、87.7%の生徒が書く力の向上を、53.8%の生徒が話す力の向上を実感した。また、4クラスの生徒データを解析したところ、ライティングでは指導前後で約39%多く書けるようになり、スピーキングでは約 46.5%多く発話できるようになった。</p> <p>・3年生の授業：2年次から継続しているエッセイライティングについては、90%の生徒が力の伸びを実感しており、多くの生徒が英語の作法に則って複数段落で意見をまとめる要領を掴むことができた。自分の主張をアカデミックに説得力を持って論じる最低限の力はついたものと思われる。客観テストにおいてもGTECのライティングパートで前年度比で10.4%学年平均点が上昇した。これによりベネッセが公表している慶應義塾大学の各学部合格者の平均点を、ライティングパートにおいては医学部を除いて全て上回った。（注：文中の数字は、年度末に実施した匿名アンケート及びGTECの結果に基づく）</p>	B	<p>【必修科目】</p> <p>←各部会ごとの達成状況</p> <p>1年生の授業：プレゼンテーションのように事前に準備をして話すだけではなく、即興的な発話の機会も増やしたい。その実現のために、ネイティブスピーカー教員との連携を、より一層強化し、授業内での対話活動の設計・実施を充実させることが望ましい。また主張をより論理的で説得力のあるものにするための「根拠（証拠・説明・具体例）」の質を高めるトレーニングが必要である。</p> <p>2年生の授業：ライティングやスピーキング等の英語を即興で運用する局面では、初歩的な文法事項を正確に使うことへの意識が薄くなってしまいう生徒が多く散見される。また、ライティングでは文と文、段落と段落の内容のつながりを高める指導も実施し、論理構成や説明の明確さにおいて改善が見られた生徒がいる一方で、内容と流暢さの向上を両輪で統合していくことは今後の継続課題である。</p> <p>3年生の授業：スピーキングでは、短時間で考えをまとめて話すという活動を通じて行ない、60.2%の生徒が話す力の向上を実感し、発話量も増えた。しかしながら、GTECスピーキングパートにおける伸びは限定的であった。ライティング同様にスピーキングにおいても個々の生徒のパフォーマンスを伸ばすシステムの構築を急がなければならない。</p>

学校関係者評価	
実施日	2026年5月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	

- ・比較的少人数での教育のため、生徒同士が全員の顔と名前を憶えており、将来にわたっても志木高の連帯感や魅力を高めていると思います。
- ・他の学校に比べても全体的に少人数制で学校、クラスのつながりも強く、先生と生徒の距離も近くていつでも質問や相談のできる素晴らしい環境で、生徒同士もクラスが少人数なので深い友人関係になりやすい環境であると思います。
- ・息子は3年間、いつも職員室に行き、夏休みや長期休みの時も学校に足しげく通い、好きな数学や物理等の授業や高校の域を超えて興味のある学問を先生方にたくさん教えていただきました。先生方も熱心に教えてくださり、大学の領域の勉強でもわかりやすく丁寧に教えてくださりました。これは慶應志木の少人数制指導だからこそできる素晴らしい教育であると心から感謝しています。
- ・短歌という文学の伝統的野で自分を外部に向けて表現する機会を提供していただいたことは意義深いことと考えます。
- ・タイバが求められる現代社会において、5・7・5・7・7という短歌の制約の中で伝えたい言葉を伝える、という学びは高校生にも大変なためになったカリキュラムだっと思います。また、卒業生の歌人をお招きしてより身近に短歌・日本の伝統定型詩を感じたと思います。現代において古典や伝統定型詩をなぜ学ぶのか、その理由や背景を是非丁寧に説明しながら、授業をしていただければ幸いです。
- ・2年次は少人数のクラス構成となったため、1年次と比較しクラスメイトとの関わりも深くなり生徒の満足度も高いように思われます。
- ・慶應大学に進学するに値する学力の要請はできていると思います。
- ・旧3年生が大学に入りましたが、特に学力的に苦勞する様子はありません。
- ・1学期は準備に苦勞していた様子も見受けられましたが、2学期以降は円滑に進められ、スピーチ力の向上を感じました。
- ・社会で働く人間として、スピーチ力は今後の生徒にとって最も重要なスキルの一つだと感じております。今後はAIの活用により、スピーチ原稿は質の高いドラフトが瞬時に作成されていくものと思います。ただ、それを相手にわかりやすく納得させるために、どのように構成していくべきか、どのような話し方をしたら伝わりやすいか、等を是非指導・教育して頂きたいです。
- ・現に今、大学で大学受験で入学した友人が暗記中心でできた理系科目の壁に当たっていて、先生に質問学習に来ていた志木高卒の息子や友人は、一歩先行く理系の学習をしていたので受験で入学した友人達に大学で理系科目を教えているようです。自分で考え、高校の域を超えた志木高の学習が生きているようです。
- ・英語での意思疎通はこれからの社会でも必須スキルと考えられるため、1年次で入試後の英語力の高い段階での重点的な教育も効果的と考えております。
- ・語学は自信をつけることが大事であり、アウトプットの量を増大させ、自分のスキル向上を実感させるカリキュラムは素晴らしいと感じました。
- ・たまに、塾高や女子高と比較して、志木高を自虐するような言説に触れたことがあるが、これは独立「自尊」を謳う慶應義塾の理念に反すると思う。是非とも志木高であることを誇りに思っていほしい、そのような自虐的な言動は意識的に慎んでほしいと思います。
- ・貴校の教育方針には深く賛同しており、将来を見据えた課題解決力や発信力のさらなる育成を期待しております。一方で、一部の教室環境において、私語や離席といった学習規律の乱れを懸念する声も届いております。また、極端に平均点の低い試験や、教科書から逸脱した解説による理解不足を嘆く生徒も一部見受けられます。真面目に取り組む生徒の意欲を削がないよう、授業品質の維持・向上に努めていただければ幸いです。
- ・英語の授業では、3年間を通して生きた英語学習が行われ、スピーキング、ライティング、プレゼンテーション等をPCを用いて行い、英語によるディスカッションも行える力がついて帰国子女の友人たちにも感化され、英語の力がついたように感じます。現に大学のオール英語の理工学部の授業にもついていけるようになりました。高校3年間で得意ではなかった英語が少しづつ使える英語に成長したように思えます。

2025年度 目 標					学 校 自 己 評 価		
					2025年度 評 価 (2026年3月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
					<p>・英語コミュニケーションⅡ（4クラス）では、1970年代のアメリカ文化と19世紀初頭のイギリス文化を題材にした教材を用い、リーディング・リスニング・英作文・ロールプレイと様々な活動を行った。年間を通じて、語彙レベル約1000語程度の約300語の英文を用いた読解活動を計35回実施し、理解を妨げない範囲で1分間に読める語数（WPM：Words Per Minute）を測定した。その結果、12月末時点で、4月初と比べて53.19%の生徒がリーディング速度（WPM）を向上させた。</p> <p>・3年生の美術Ⅱの授業にて、1期に制作した自画像作品を収穫祭で展示した。展示の可否は生徒にアンケートをとって確認したが、ほぼ全員の生徒が作品を展示することとなった。学外の方も来校する収穫祭で展示することで、様々な方から作品のフィードバックを受けることができた。作品を描いて終わるのではなく、作品を通じて他者と交流する貴重な機会となった。</p> <p>・『櫛』第34号を発行して、部活や生徒会などの活動報告および授業などで作成した作品やレポートの発表の場を生徒に提供し、教員はその指導を行なった。</p> <p>【学問・研究の必要性】 【選択科目】</p> <p>・ことばと文学（ろ）では、「作者側の体験」と題して年間創作活動を行なった。創られたものを受容するだけでなく、創る体験の中にもおもしろみが含まれていることを実感してもらった。作った作品は校外のコンクールに応募し、いくつか入選を得た。</p> <p>・「社会A」では、「日本文化 基礎のキノ」と題し、「まずは日本の伝統文化に実際に触れてみよう！」をキー・コンセプトに、光彩館和室「清心庵」での茶の湯の実習を中心に授業を展開した。校内の豊かな自然環境を活かし、季節の花を床の間に飾る体験や、チャノキを用いた茶摘みと製茶体験も試みた。留学生（7月に台湾、9・12月に豪州）を迎えた際の茶の湯体験は、履修者諸君にとって格好の成果披露・成長の機会となった。加えて、夏季休業中の課題を兼ねて、一般社団法人茶道裏千家淡交会総本部主催の令和7年度「第46回学校茶道エッセイ」（生徒の部）に応募し（同コンテストへの応募は初）、3名の諸君が入賞した（優秀賞1名・第一席2名）。</p> <p>・社会Cでは、近代文明批評の名著であるオルテガの『大衆の反逆』を解説を交えながら通読し、思想書を精読するスキルの向上を目指した。また現代の国際情勢をオルテガの視点から考察するという課題にも取り組み、その成果の一部を収穫祭で各自のポスター発表として展示した。さらにそのポスター発表内容を基にレポートを作成してもらい、加えて授業内で各自のレポートを口頭発表してもらった。このように履修者には大学進学後・就職後にも役立つであろう様々なアウトプット形態（1枚紙で示す、レポートを書く、プレゼンをする）の経験をしてもらった。</p> <p>・英語Aでは①英語で話すことへの抵抗感を無くすこと、②高校段階で学習する語彙や語法を実際に書く・話すの場面で使えるようになることを目指した。履修者は48名で1つのクラスサイズは7名から14名であった。毎時間テーマを与え話す時間を設ける、その直後に履修者同士で表現の確認や誤りの指摘を互いにさせる、それを経て必要な言語形式や語彙を教員が明示的にフィードバックするという形で進めた。またこれらの表現はその後も断続的に使わせ、小テストも行うことで自動的にアウトプットで使えるようになるよう心掛けた。最終的な履修者へのアンケート（匿名）の結果、①については86.8%、②については92.0%の生徒が伸びを実感したという回答を得られた。年度当初の目標をある程度は達成することができたと考えている。</p> <p>・英語Bでは、様々なアーティストの英語の歌を題材にして、英語表現と英語文化に関して学習した。歌を鑑賞しその歌詞の中の英語表現を学ぶだけでなく、そのアーティストの歴史や時代背景まで話を広げた。ビートルズ、サイモンとガーファンクル、ボブディラン、クイーン、イーグルスなど、ひと昔前の曲を題材にしたが、生徒たちはとても興味を示してくれ、歌詞の意味や英語表現だけでなく、演奏方法やアーティストの考え方に至るまで、毎回非常に内容のあるレポートを提出してくれた。</p> <p>・英語Cでは、金星堂から出版されている“Premium Reader”というテキストを用いて、スキミングやスキヤニングなど、英文読解のポイントとなる事柄を確認した上で、様々な英文に触れ、読解力を向上させることができた。</p> <p>・2014年度より高大連携教育の一環として行われている、本塾大学文学部日吉キャンパス設置科目（一部）の履修制度（第3学年次に履修後、文学部進学の場合は卒業単位に含まれる）について、今年度は、春学期・秋学期で第1・3学年から延べ4名が履修し、熱心に受講した。</p> <p>【総合的な探究の時間】</p> <p>・24言語の「ことばと文化」を通して、各国の文化、伝統や言語を学ぶ機会が多くあった。</p> <p>【語学課外講座】</p> <p>・前後期で延べ240名の生徒が、単位とは関係のない語学課外講座を履修し学びを深めた。傾向として、2・3年の履修者は年間を通して継続して学習する割合が高い傾向がうかがえる。</p> <p>【全体的な学習環境の充実】</p> <p>・本校主催による学部説明会は三田キャンパスで、本塾各学部（医・理・総・環・薬（SFC総環はOPEN CAMPUS））は見学会を各キャンパスにて対面で開催した。</p> <p>・『志木高案内』2025年度版を新規に作成し、生徒の学校生活における利便性の向上に努めた。</p> <p>・「災害対応に関する教職員マニュアル」2025年度版を整備し、緊急対応の体制を充実させた。</p> <p>・『研究紀要』第56輯、『ことばと文化』第30号を発行し、教育・研究の発表の場とした。</p>		<p>・各講座の特徴をより効果的にアピールし、総合的な探究の時間では様々な未知の言語・文化との出会いを、課外講座ではより専門的なことがらにふれる機会を提供する。</p> <p>・卒業後の進路について考える機会を増やす。</p>

学校関係者評価	
実施日 2026年5月9日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・学校訪問時に美術作品をよく目にしますが、非常に完成度が高く美的素養を感じます。</p> <p>・好きで始めた先生との数学物理化学の勉強会が数理科学研究会となり、『櫛』第34号にて初めて好きな分野の学問の追及としてレポートの一部が掲載され、このような学問の追求ができるのも志木高ならではの醍醐味だと思います。</p> <p>・『櫛』は部活動や作品、レポートなど生徒の様々な活動が分かるため、毎回楽しみにしております。</p>	<p>・英語の歌を題材にした英語表現と英語文化に関して勉強するカリキュラムはとても素晴らしいと感じました。単に単語や文法を学ぶのではなく、語学を通じて文化や表現方法も同時に学んでいってほしいと思います。</p> <p>・1年生の時から、英語ではない中国語やスペイン語や普段習わない言語を3年間履修し、いろいろな言語や文化を学び、視野が広がり、語学に対するの知的好奇心が増え、日常的に自らいろいろな言語を勉強するようになりました。</p> <p>・大学の見学会には友人と積極的に参加し、理系だが文系の学部等も見学し、幅広い分野の学問を知れてよかったですと息子は話しています。</p> <p>・『志木高案内』は保護者にとっても網羅的で活用しやすいものになっています。引き続き内容の充実にも努めていただきたいと思います。</p> <p>・内閣からも動画が発出されており、災害の可能性を常に想定しておく必要があります。学校の災害対応状況については、保護者にも共有していただけると安心できます。</p>

2025年度 目 標					学 校 自 己 評 価		
					2025年度 評 価 (2026年3月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
2	現在の生徒数による教育の長所を生かし、教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育を行う。	教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育の実践	・精神面においては、クラス担任のみならず全教職員、医師、スクールカウンセラーによるきめ細かい指導の実践	・教員会議において生徒の現況の情報共有化を図り、と協力的体制を構築する。	<p>【特色ある教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアの Toowoomba Grammar School (TGS) との約4週間の交換留学プログラムを実施し、8月に訪問、11月に受け入れを行った。訪問時には、10回目の交流を迎えたことを記念して協定書「Study Abroad Partnership Declaration」の調印式を実施し、両校の教職員・生徒が出席のもと、交流の継続および内容の充実を確認した。あわせて、TGS創立150周年記念式典に招待を受け、プログラム参加生徒とともに出席した。9月には、TGSのジャパンプアーの一環として、教職員4名・生徒30名が本校を訪問し、3日間にわたり授業および部活動等に参加し、多くの本校生徒と交流を深めた。 ・台湾の Taipei Wego Private Bilingual Senior High School (Wego) との約1週間の国際交流プログラムを実施し、7月に受け入れ、9月に訪問を行った。10回目の交流を記念して協定書「Study Abroad Partnership Declaration」の調印式を実施し、両校の教職員・生徒が出席のもと、交流の継続および内容の充実を確認した。 ・収穫祭ならびに12月の第139回志木演説会、『樺』第34号において、国際交流の成果報告を行った。 ・2011年度より理科教育の一環として長野県諏訪市～新潟県糸魚川市・上越市周辺において、生物・化学・地学・物理の実習を行なっている。2024年度より、内容を一部変更、生物・化学は諏訪湖・仁科三湖の水質を調査して環境と対比、物理は水力・火力・原子力発電所を見学することで発電事情の長所・短所を偏見なく実態から理解。地学は糸魚川・上越地域の地質から同地域の地形・形成史との関係理解を図っている。 <p>【ストレスケア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年、教職員・医師（校医、精神科医）・カウンセラーらがチームとなって、様々な問題を抱えている生徒に対応している。 ・新型コロナウイルス感染症拡大を機に、オンラインでの面談方法を取り入れ、生徒・保護者の抱える複雑な状況に対応できるよう整備した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の成果は両校の参加生徒の意欲や姿勢に左右されやすい。留学先教員との連携のもと、交流に対して主体的に取り組む生徒の選抜を行う方針を明確化した上で、参加生徒の決定およびベアリング（受入・派遣双方）の決定を行う必要がある。 ・不適切な言動やマナーの低下により、相手校生徒に不快な思いをさせないよう、事前指導を徹底する。具体的には、交流の目的の共有、マナーに関する指導、ルール遵守の確認等を行い、相互尊重に基づく交流の実現を図る。 ・本校生徒にみられる精神的成長（その過程で生じる不安感や悩みなども含む）の特徴を調査・分析し、今後の教育活動に活かす。
3	生徒を多様な学校行事とクラブ活動等に参加させることにより、良好な人間関係や規範意識を育成し、積極的に心身の健康の増進を図り、リーダーシップを培う教育を行う。	生徒が自主的に学校行事、各人に適したスポーツ、アート、リサーチ、各種のプロジェクト等に参加するための指導の実践	・学級担任会、生活委員会、体育部会・文化部会等においてきめ細かい指導方針の確立と実践 ・学校行事、体育系・文化系クラブ活動の選択肢の充実	・HR活動、生徒会活動、体育系・文化系クラブ活動においての適正な指導を図る。	<p>【多様な学校行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年5月に実施している1年生研修旅行は、2泊3日の日程で実施し（コロナ禍で20・21年度は実施せず、22年度は日帰り、23年度は1泊で実施）、各教科の興味・関心を喚起するとともに、生徒間の親睦を深める機会とした。初日は横浜美術館を見学後、横浜を中心とした班別自主研修を実施。2日目は三浦半島で猿島・満願寺・小網代の森等を、現地ガイドの協力を得ながらクラス毎に見学。3日目は鎌倉を中心とした班別自主研修で、最後に全班、鎌倉大仏（高德院）を見学した。全日程を通じて、ワークシートやレポートに取り組んだ。 ・第1回試験終了後の7月、3年生が見学旅行の事前学習として、映画『生きる―大川小学校津波裁判を闘った人たち』を光彩館ホールで鑑賞した。あわせて、本映画の出演者で裁判の原告側訴訟代理人を務めた吉岡和弘弁護士をお招きしてご講演いただいた。昨年度、齋藤雅弘弁護士をお招きした志木演説会とあわせ、大川小津波裁判に対する理解を一層深めることができた。 ・9～10月、3泊4日の3年生見学旅行（東北地方）を実施した。中尊寺・宮沢賢治記念館・大川小学校・南三陸町自然環境活用センター等に加え、今年度は新たに、羽黒山・海岸線の美術館・成島巽沙門堂等を訪れ、現場ならではの貴重な学習の機会とした。なお、3年の日本史探究（全クラス）では、授業と旅行、自由課題を通じて、日本の文化財について主体的に考える機会を提供したが、羽黒山で見学した文化財について、特に優れたレポートが提出されたので『樺』に掲載した。 ・生徒向けにBLS講習会を実施し、日常生活の中での健康危機に即座に対応できるように努めた。 ・7月、慶應義塾三田キャンパス西校舎ホールで、建築家 内藤 廣 氏を招いて、第138回志木演説会を開催した。「君たちのころの私・今の私」という演題であった。 ・12月、慶應義塾三田キャンパス西校舎ホールで、落語家 立川 談慶 氏を招いて、第139回志木演説会を開催した。 <p>【生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の一環として、正門前や校内で「緑の羽根募金」を実施した。 <p>【クラブ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水泳部が関東高等学校水泳競技大会に6名出場した。 ・スキー部が関東高等学校スキー大会・全国高等学校スキー大会に出場した。 ・端艇部が秋の関東高等学校選抜ローイング大会にて、男子舵手付きキオドルブルで2位、2026年3月の全国高等学校選抜ローイング大会への出場が決定した。その全国選抜大会では全国3位に入賞した。 ・蹴球部が埼玉県代表として第105回全国高校ラグビーフットボール大会に出場した。（ベスト16） ・弓術部の部員1名が関東高等学校弓道大会に出場した。 ・ターナー色彩株式会社主催の「TURNER AWARD2025」に美術部の生徒が出品し、準入選をいただいた。 ・全日本学生美術展に美術部の生徒が応募し、一名が佳作に選出され東京都美術館にて作品が展示された。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の見学旅行：3日目が雨で、自主研修中だった3クラスは公共交通機関の乱れに大きな影響を受けた。大事には至らなかったが、特に今回のように集合場所がホテルでない場合、バスの動きなど事前にもう少しコミュニケーションしておきたい。 ・各クラブ活動の様子をウェブサイトなどに掲載し、情報を充実させる。

学校関係者評価	
実施日 2026年5月9日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・運動会について迫力ある競技を通じて息子の成長を実感できることは、親として大きな喜びです。現在は保護者の見学が制限されておりますが、学校行事への参加は保護者の満足度にも直結いたします。ぜひ「魅せる運動会」として、参観機会の拡大をご検討いただければ幸いです。なお、伝統ある行事だからこそ、綱引きの妨害行為といった慣習については、現代的な「団結力やフェアプレー」を重視する方向へ昇華させていくことが、生徒のさらなる成長に繋がるのではないかと感じております。</p> <p>・種々の課外活動は、生徒たちのとても良い思い出になると思います。卒業してからも振り返れるように、是非たくさんの写真を撮ってあげていただきたいです。運動会等は、活躍する場が限られる生徒もいるため、競技だけの写真ではなく、クラスの集合写真も望ましいと思います。</p> <p>・3年生の見学旅行は、東北地方で他校のように遊覧ではなく、様々な分野からしても学習旅行であり、今後の未来を担う生徒達にはとても有意義な旅行であったようで、息子たちからもいってよかったという声が多く聞けました。</p> <p>・志木演説会での聴講姿勢について、改善の余地があるように聞き及んでおりますので、ご指導よろしく願いいたします。</p> <p>・蹴球部が花園に出たことから、クラス内で連帯が生まれていたようである。望ましい姿だと思えます。</p> <p>・「文武両道」の精神のもと、技術面のみならず、人間的な成長を促す熱心なご指導をいただき感謝しております。実績面でもラグビー部の全国大会出場をはじめ、各部の活躍には目を見張るものがあります。特に収穫祭での生物部の丁寧な解説や、定期演奏会での器楽部の圧倒的な演奏・演出力は、他校を凌駕するレベルの高さであると感銘を受けました。</p> <p>・様々な部活動が優秀な成績を残しており、素晴らしいことです。メジャー競技であるラグビーは周知が徹底されていましたが、他の部活動についても、在校生保護者向けの案内を行っても良いように感じました。</p> <p>・蹴球部が創部初の全国大会である花園に出場し、大阪までみんなで応援に行き、友人たちの努力と頑張りをみて息子もすごく感動し、大きなものを得たと話していました。</p>	

学 校 自 己 評 価					2025年度 評 価 (2026年3月31日現在)			
2025年度 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	達成度	次年度への課題と改善策		
4	ホームページ等で情報を有効に発信し、学校行事、学校施設等を開放するとともに、本校生徒が小学校、中学校、養老施設等を訪問し、交流を図る。	家庭、地域社会に対する積極的な情報の発信、オープンキャンパスの実施、生徒の積極的な地域活動への参加	・各委員会の連携と内容の充実	・教員会議において活動状況の情報共有化と協力体制を図る。	<p>【広報活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『学校案内2026』を刊行した。 公式ウェブサイトおよびx (旧Twitter) のアカウントを引き続き活用し、情報の提供に努めた。 本校主催の学校説明会は、外部イベント予約サイトを利用した事前申し込み制で、2023年度以降、体育館の収容人数1,000人を予約上限として、11月に対面で開催している。 入試については、外部インターネット出願サイト (miraicompass) を今年度も継続して利用した。 『四季』の発行。2002年以降、長期休暇後最初のHRを発行日として、季刊で発信している。内容は、校内の自然環境の推移やトピック、その他の話題を教科横断的に提供。2025年度も、春、初夏、初秋、冬号を発行。全校生徒、全教職員に配布すると同時に、OBに対しても「志木会 (OB会)」のウェブサイトにリンク、掲載いただいている。 <p>【授業に絡めた地域理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種小論文コンクール等への参加や出品を、積極的に行なった。 <p>【クラブ活動を通じた地域交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワグネル・ソサイエティー男声合唱団は5月、社会福祉法人ルストホフ志木において、入所者、ご家族、職員の皆様のために演奏した。また同じく5月、三芳町合唱祭にゲストとして演奏し、ご好評をいただいた。 ワグネル・ソサイエティー男声合唱団は10月、志木市高齢者学びの場「いろは大学」の講義の一環として依頼され演奏し、地域の方々との交流も行った。 ワグネル・ソサイエティー男声合唱団は、2026年3月20日 (金・祝) 「光彩館ホール」において、第18回定期演奏会を開催し、地域の方々を中心にお楽しみいただいた。 器楽部が第27回定期演奏会 (3月28日、29日) を開催した。志木市民会館が建て替え工事中のため光彩館を会場としたが、手狭なため来場者にはチケット予約サービスを通じて事前予約していただく方式をとった。4回の公演で1200名を超える観客に部員達の演奏をお楽しみいただいた。 器楽部が「あけぼの大学」 (宗岡公民館主催) に招かれ、地域の高齢者の皆様に演奏を披露した。 <p>【学校行事を通じた地域交流】</p> <p>【学校施設を利用した地域交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣 (志木市、朝霞市、新座市) 在住の方々を対象とした校内自然観察会を5月と9月の2度開催し、2025年度も、5月は162名、9月は152名の方にご参加いただいた。参加者には近年、在校生保護者、本校への進学希望者 (保護者含む) が含まれるようになってきた。 志木小学校1年生のドングリ拾いイベントが収穫祭の代休を利用し本校の敷地を一周する形で敷地を開放し2024年10月に再開した。2025年度は雨天順延した志木小学校の運動会と重なり実施がかなわなかった。 年に数回近隣のラグビースクールにラグビー場を使用してもらっている。 <p>【地域との交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> 志木市立の中学在校生徒に対する勉強支援事業「志木市ベーシックサポート事業」に、本校から多くの生徒が有償ボランティアとして参加した。今年度から始まった志木市の事業で、夏休み期間と秋の2回実施された。受講した中学生からも好評をいただいた。 <p>【学校いじめ防止基本方針に基づく取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ防止基本方針に基づく調査を実施し、教員会議において複数回議論を行なった。また、今年度も学校自己評価と併せて校内掲示にて周知した。 2023年度より「いじめアンケート」の実施回数を増やし、回答内容に応じて、具体的な対策を講じた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 公式ウェブサイトにおいて、クラブ活動の戦績紹介・活動報告等をより積極的に行なえるよう、仕組みづくりを検討する。 各種コンクール・コンテストなどへの個人・グループでの応募を積極的に奨励している。 OBや一般市民向けの本校教員による公開講座実施などの可能性の検討が望まれる。 本校の恵まれた自然環境を生かして地域にオープンにしていく工夫を学校全体として議論していきたい。本校が地域の文化的拠点となるような方向で設備を整理していくことを考えるべきである。 学校施設の地域社会への開放について、今後も検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページは、かなりの人が目にしていて、頻繁な更新をしてほしいと思います。 1年生の時に野球の早慶戦観戦がありましたが、一貫性のある慶應義塾の良さをもっと身近に感じられるような活動やプログラムがあると良いように感じました。例えば、今回ラグビー部が大躍進した背景には大学ラグビー部との合同練習も一因とうかがいます。当方の誤解かもしれませんが、塾校生はもっと慶應義塾を身近に感じているように思われ、志木校生もそのような機会や感覚をもっと持つてもらうのも良いように感じました。 ワグネル・ソサイエティーは毎年の収穫祭で鑑賞させていただいており、非常に楽しみにしております。 器楽部については、近隣の中学校で全国大会に出場している学校もあることから、可能であれば交流を図っても良いように思います。 器楽部の3月の第27回定期演奏会を聴きに行きました。とても素晴らしく感動しました。 テスト期間中など利用できる状況であれば、積極的に利用していただき、近隣から応援される高校になってほしいと思っています。

学校関係者評価	
実施日	2026年5月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
	<ul style="list-style-type: none"> ホームページは、かなりの人が目にしていて、頻繁な更新をしてほしいと思います。 1年生の時に野球の早慶戦観戦がありましたが、一貫性のある慶應義塾の良さをもっと身近に感じられるような活動やプログラムがあると良いように感じました。例えば、今回ラグビー部が大躍進した背景には大学ラグビー部との合同練習も一因とうかがいます。当方の誤解かもしれませんが、塾校生はもっと慶應義塾を身近に感じているように思われ、志木校生もそのような機会や感覚をもっと持つてもらうのも良いように感じました。 ワグネル・ソサイエティーは毎年の収穫祭で鑑賞させていただいており、非常に楽しみにしております。 器楽部については、近隣の中学校で全国大会に出場している学校もあることから、可能であれば交流を図っても良いように思います。 器楽部の3月の第27回定期演奏会を聴きに行きました。とても素晴らしく感動しました。 テスト期間中など利用できる状況であれば、積極的に利用していただき、近隣から応援される高校になってほしいと思っています。